

碑めぐりと平和記念資料館の見学は、いかがでしたか？

展示が美しく、全体的なストーリーや展示物一つ一つに感銘を受けました。読む展示、感じる展示、触れる展示、考える展示などさまざまで興味深く、いろんな思いにつつまれました。

とても満喫でした。暑い中、色々ご手配いただき、ありがとうございます。

小学校で勉強していたのである程度は覚えていたが、これまで何となく見ていたひとつひとつの碑についてまた詳しく知ることができたのはとてもいい経験になった。平和記念資料館も、前行った時は改装中であつたため、完成された状態で1度行くことができてよかった。

資料館の中での写真や絵、証言からわかる被害は本当に痛ましいもので、1発の爆弾でここまで多くの人を傷つけた原爆は許されるものではないと感じた。

碑めぐりと平和記念資料館の見学を通して、原爆による被害の大きさだけでなく、その記憶がどのように残され、伝えられてきたのかについて考える機会になりました。平和記念資料館を訪れたのは今回が初めてで、展示されている写真や絵には衝撃的なものも多く、正直、見ていて思わず苦しくなる場面もありました。これまで原爆について知識として学んできたつもりでしたが、実際に展示を目の前にすると、被害の大きさがより具体的に迫ってくるように感じました。なかでも特に印象に残ったのは、私と同じくらいの年齢で被爆した男性の日記です。日記には、「教授になってやる」と将来への希望をもち、研究をしたいという思いを抱いていたことが記されていました。しかし、次第に被爆による症状が悪化し、その夢を実現することができなくなっていく様子も残されていました。同じように研究者を志している自分にとって、やりたい研究や将来の夢がありながら、それを諦めざるを得なかったことがとてもつらく感じられました。原爆によって奪われたものは命だけではなく、一人ひとりが思い描いていた将来や、学びたい、働きたいといった日常の延長にある夢でもあったのだと感じました。また、碑めぐりでは、原爆ドームが現在のように当たり前に保存されてきたわけではなく、「つらい記憶を思い出したくないから壊してほしい」という思いもあったことを知ったことが印象に残っています。その一方で、「他の国の人にも同じ思いをしてほしくない」という思いから保存運動が進められ、全国から募金が集められたことを知りました。原爆ドームを残すということ自体が、被爆の記憶と向き合いながら、同じことを繰り返さないための選択だったのだと感じました。平和公園の碑めぐりでは、韓国人原爆犠牲者慰霊碑を実際に訪れることができたことも、特に印象に残りました。私は普段、在日韓国・朝鮮人をめぐる教育や歴史に関心をもって研究しているため、広島で被爆した朝鮮半島出身者の存在や、その人々がどのように記憶されてきたのかという点に強く関心をもちました。とりわけ、この慰霊碑が当初は平和記念公園の中ではなく外に建立されていたということを知り、そのことが何を意味しているのか、なぜそのような位置づけになったのかについて、もっと詳しく知りたいと思いました。原爆による被害を考える際には、植民地支配の歴史や、誰の記憶がどのように残されてきたのかという問題も切り離して考えることはできないのだと感じました。さらに、原爆の子の像や原爆供養塔などを実際にめぐることによって、原爆によって亡くなった人々一人ひとりに、それぞれ異なる人生や背景があったことを改めて実感しました。建物疎開の作業に動員されていた多くの子どもたちが亡くなったことや、現在でも名前の分からない犠牲者がいることも強く心に残っています。今回の見学を通して、原爆を単に過去の出来事として学ぶのではなく、そこで生きていた一人ひとりの人生や夢、そしてその記憶がその後どのように残されてきたのかまで含めて考えることの大切さを感じました。また、「核兵器が世界からなくなったときに平和の灯を消す」という話も印象に残っています。現在も世界には多くの核兵器が存在しています。今回学んだことを一度きりのものにせず、被爆の記憶をどのように受け継ぎ、これからの平和についてどのように考えていくのか、自分自身も考え続けたいと思いました。

初めて原爆ドームを見ましたが、ガイドの方が丁寧に案内してくださり、とても勉強になりました。
ガイド付きでとてもわかりやすく、口頭説明に出てきた内容と実際の現場の様子が、その後の資料館で確認でき、よりリアルに感じることができました。
実際に公園を歩きながら説明を聞くことで、当時の悲惨な光景が目には浮かぶようで、被害の大きさを改めて感じました。被爆者の皆さんが語られた言葉を目にし、原爆遺物からも語りかけてくるようで、胸が詰まる思いでした。
母親になってから初めて訪れました。子どもの頃感じた恐怖の感覚に加え、今回は愛する人、子どもを失った強烈な悲しみと怒りを感じました。そして犠牲になったのは日本人だけではなく、日本人を助ける為に命をかけた外国の方たちがいたのだ、と言う事を忘れていた事に気づきました。 感じる、体験する事が大切ですね。
今回のツアーで、原爆ドームや石碑、資料館を初めて訪れました。被害を受けた建物や遺品などを間近で見ることで、核兵器の威力やその凄惨さを改めて実感しました。一発の爆弾によって、これほど多くの人々の命が奪われ、建物までもが一瞬で破壊されてしまうのだということを、身をもって学びました。また、日本人だけでなく、朝鮮半島出身の方々や米軍兵など、さまざまな国や地域にルーツを持つ人々が原爆の被害に遭っていたことも知りました。こうした悲惨な被害を経験した人々やその遺族がいる中で、80年以上にわたり、国境を超えて核兵器の廃絶や国際平和が願われ続けていることに、深く感銘を受けました。
平和首長会議ユースの高校生との交流はいかがでしたか？
同世代で素晴らしい活動をしていらっしゃる方々にお会いでき、たくさんお話しできたことはすごく良かったです。まだまだお話ししたかったです。
高校生の方々の体験談を聞かせてもらって、とても感心でした。今まで日本国内で色々平和関連のイベントを行ってきたと聞きましたが、これからもそのようなイベントをより広い海外でも行ってもらいたいと思います。
意見の違う人を理解するとは？や、興味関心を持ってもらうためにどうすればよいか？など、核兵器廃絶や平和活動において真剣に考え、行動されている姿に感銘を受けました。私もできることから1つ1つ地道に行動していこうと思いました。
広島の高中生たちがどのような活動をして、これからどうしていきたいのか、興味深いお話をたくさん伺うことができました。
高校生の子がまるで自分の使命かのごとく、平和を語る姿に驚きました。決して怒りや悲しみの感情に溢れている訳ではなく、淡々と平和を語る姿を見て、私達大人も頑張るでー！とエールを送りたくなりました。覚悟を持った人は優しさと強さに溢れていました。とても勇気と希望をいただきました。
高校生という未来を担う若者が、普通の生活では経験し得ないことを、その感性を持って体験してここの意義を改めて感じることができました。できれば、こちらの参加者も同年代が多くいたら、私たちより受け取るものが大きかったかもしれないので、その部分は残念でした。
私より年下の子達がこんなに頑張って考え、平和に向けて活動していることを知り、本当に尊敬の念を抱いた。中高は平和学習もほぼなかったため、大学に入って時間が沢山ある今平和についてまたちゃんと考えることができたいい機会であった。今はSNSが大きな影響力を持っており、対面でのコミュニケーションでは起こりえないような強く攻撃的な言葉も使われる時代で、それでもやるしかないと思い、平和という大きな概念について自分事としてしっかり考えていくことはとても大事だと感じた。

高校生との交流では、彼女たちが国際会議に参加したり、国連本部やアメリカの大学などで、自分たち日本人の平和への思いを発信し、議論していることに驚きました。

とりわけ、高校生の段階で、彼女たちがすでに「平和」について自分なりの答えを見つけ出していたり、自分自身が「賛成される人」になろうと考えていたりしていることに感服しました。そこから、さまざまな意見やバックグラウンドを持つ人々との対話を通じてお互いの共通点を見つけ、多角的な視点から「平和」について考えることが、核兵器の廃絶や国際平和の実現につながると話していたことが強く印象に残りました。

このように、若いうちから国際社会で積極的に活動している方々の姿を見て、これから平和活動に取り組んでいきたいと考えている私自身も大きな刺激を受けました。今回の交流を通じて、自分自身も国際平和の実現に向けて少しでも貢献できるよう、これまで以上に努力を重ねていきたいと思いました。

平和首長会議ユースの高校生との交流では、高校生の皆さんが平和や核兵器の問題について自分たちで考え、さまざまな活動に取り組んでいることがとても印象的でした。特に心に残ったのは、広島以外に住む人や、平和・核兵器の問題に関心のない人たちに、どのように関心をもってもらえるのかという話です。私は、自分たちが大切だと思って活動していることに対して「興味がない」と言われることは、とても傷つくことだろうと感じました。それでも、すでに関心をもっている人だけではなく、関心のない人をどのように巻き込んでいくのかを考えていくことが必要なのだと思いました。また、被爆者の「生の声」を直接聞くことの大切さを感じる一方で、被爆から長い年月が経ち、直接話を聞くことのできる機会が少なくなっているなか、その声をどのように次の世代へ継承していくのかという課題についても考えさせられました。AIやバーチャル技術など、新しい方法で記憶を残していく取り組みもある一方で、人から人へ直接語られることの意味をどのように引き継いでいくのかは、簡単に答えを出せる問題ではないと感じました。さらに、高校生との交流を通して、広島で行われている平和教育と、私がこれまで触れてきた大阪の平和教育とでは、平和や戦争について学ぶ際の視点や、身近さのあり方に違いがあることも印象的でした。同じ「平和教育」であっても、地域の歴史や経験によってその内容や受け止め方が大きく異なるのだと感じ、もっと知りたいと思いました。今回の交流を通して、平和について「伝える」だけではなく、関心のない人も含めてどのようにつながりをつくっていくのか、被爆者の声をどのような形で次の世代へつないでいくのか、そして地域によって異なる平和教育をどのように捉えていくのかについて考えることができました。

参加前と比べて、気持ちや印象にどのような変化がありましたか？

初めての参加で、途中までは正直、平和学習だなというイメージで見えていましたが、平和記念資料館の後からもう、この問題、平和という一文字にいつのまにか真剣に向き合っていました。

参加前に、核兵器のことをほとんど考えたことがなかったです。平和記念資料館を見学して、当時の一般市民の悲惨な写真を見て、国が違ってもやはり涙が出るほど悲しいです。これから平和や核兵器のことについて、違う角度で捉えてみようと思います。

今ある毎日は当たり前ではなく、突然崩れ去る事があるのだと、改めて感じました。公園のガイドをしてくださった新谷さん、そして高校生の子達、年齢や置かれた環境は違いますが、同じ思いを持った力強い覚悟を感じました。京都にいと、ついつい忘れてしまうのですが、私も学んだ事感じた事を伝えていきたいと思っています。

ふんわりとネットの言論を見らる中で、何となく核を廃絶することは無理があるのではないかと思っていたが、その中で頑張っている人々が広島にも世界にもたくさんいることを知り、もっと自分にもできることがあるはずで、それも考えずに何となく諦めていた事が恥ずかしくなった。

たくさん時間があり、たくさん遊んでいる大学生活の中で、今回このような企画に参加して本当に良かったと感じた。

特に気持ちの変化はありません。

人間の愚かさの答え合わせができた感じでした。

正義がぶつかり合うことは避けられないとするなら、核を手放すことしか解決の道はないと思います。

ピースツアーに参加する前は、広島でどのような平和活動が行われているかについてあまり知らず、日本に核兵器が落とされたという出来事についても、そこまで自分ごととして捉えることができていませんでした。しかし、今回のツアーを通じて、私たちが実際に声を上げて平和を訴えたり、戦争被害の証拠を、「二度と同じような悲劇を繰り返さないようにするための平和の象徴」として残したりすることの大切さを学びました。そして、私たち市民社会にも、平和のためにできることは沢山あるのだと気付かされました。特に、これまで私は「対話を行う」ということに対して具体的なイメージを持てていませんでした。しかし、対話を行うことで異なる意見を持つ人々との共通点を見つけることで、「平和を目指す」という共通の方向に向かって歩むことができるのだと気付きました。その経験から、これからは身近な人だけでなく、これまで関わったことのない方々とも、積極的に対話をしてみたいと考えるようになりました。これまで私は、レポートや論文を書くことだけで、ある程度平和に貢献できるのではないかと考えていました。しかし、今回のツアーを通じて、それだけではなく、実際に人と向き合い、対話を試みることも重要なのだと気付きました。これからは、日本語でも英語でも、少しずつさまざまな人々と対話できるように、自分自身も成長していきたいと感じました。

参加前は、原爆や広島被害について深く学ぶ機会がほとんどなく、どこか自分から遠い出来事として捉えていた部分がありました。しかし、実際に広島を訪れ、碑をめぐり、平和記念資料館の展示を見たことで、原爆を歴史上の出来事としてではなく、そのなかで生きていた一人ひとりの生活や夢、将来が奪われた出来事として考えるようになりました。

特に、研究者になることを夢見ながら、被爆による症状の悪化によってその夢を叶えることができなかった若者の日記が強く印象に残っています。同じように研究を志している自分にとって、その人が思い描いていた将来そのものが奪われていくことがとてもつらく感じられました。また、高校生との交流のなかで、平和記念資料館も一人ひとりの被爆者の人生に焦点を当てた展示を重視するようになったと聞き、被害を数字や出来事としてだけではなく、一人ひとりの人生として伝えることの意味を改めて考えました。

一方で、韓国人原爆犠牲者慰霊碑が長く平和公園の外に置かれていたことを知り、「誰の記憶が、どのように残されてきたのか」ということにも関心を持ちました。また、被爆者から直接話を聞くことのできる機会が少なくなるなかで、その声をどのように受け継ぐのか、さらに平和や核兵器の問題に関心のない人にどのように伝えていくのかという難しさについても考えるようになりました。

そして今回、自分自身も研究をし、論文を書く立場として、平和をどのように伝えることができるのだろうか考えるようになりました。一人ひとりの経験や声を単なる「事例」として扱うのではなく、その人が生きてきた背景や思いを丁寧に捉え、それまで十分に語られてこなかった経験を社会に伝えていくことも、研究を通してできることのひとつなのではないかと思いました。今回の参加をきっかけに、自分が研究し、文章を書くことと、平和を伝えることとのつながりについても、これから考え続けていきたいです。

参加前は平和活動として何ができるのかがイメージがわからなかったですが、平和記念公園や平和記念資料館ともに、日本人以外の方もたくさん見学されていたのを目の当たりにし、世界で平和を求める声を強くしていけると本当にいいなと思いました。
資料館にどのような展示があるのか想像がつかなかったのですが、原爆の恐ろしさと核を取り巻く国際情勢について詳しく学ぶことができました。大学ミュージアムでも、今回学んだことを共有していきたいです。
全体を通してのご意見・ご感想など、ご自由にお書きください
素晴らしい企画をありがとうございました！とてもいい勉強になりました。
今回は貴重な経験をさせていただき、誠にありがとうございました。 役員の皆さまの進行のおかげで、移動や交流もスムーズに行うことができ、たいへん有意義な時間を過ごすことができました。 一点、今後のツアーに向けて感じたことがございます。資料館の見学時間が1時間程度と短かった上、大変混雑していたため、最後までじっくりと見学することができませんでした。そのため、次回以降、同様のツアーを実施される際には、お土産を購入する時間をおりづるタワーでの時間に集約し、その分、資料館での見学時間を30分～1時間ほど延ばしてもよいのではないかと感じました。 しかし、それ以外に気になった点はなく、全体を通して素晴らしいツアーになりました。 改めまして、この度はこのような素晴らしい機会を設けていただき、誠にありがとうございました。
資料館や平和公園を歩いて説明を聞く事もとても意味ある事だと思いますが、新谷さんや高校生の方の生の声を聞けた事が、とても大きな貴重な機会をいただけたと感謝しています。ありがとうございました。京都にもきっと強い想いを持って平和活動をしている方もいるのだろうと思います。そんな方達とも一度お話しをしてみたいと思いました。
事前の参加者集めから当日のコーディネートまで本当にお疲れ様でした。 暑い日でしたが、トラブルもなく無事に研修終えられたことに感謝申し上げます。 娘が色々なことを受け取ることができたので、若い世代の参加が増えるように、今後このような機会がありましたら、広報活動をもっと積極的に行い、平和への想いを次世代に繋げられるようにしたいです。
このような貴重な機会を設けていただき、本当にありがとうございました。碑めぐりや平和記念資料館の見学、高校生との交流を通して、これまで十分に学ぶことのできていなかった広島市の被爆の歴史や、平和について考えるための多くのきっかけをいただきました。 実際に広島を訪れ、その場所を歩きながらお話を伺えたこと、また、さまざまな立場の方と交流できたことは、とても貴重な経験になりました。今回学んだことや感じたことをその場限りにせず、これからの自分の研究や日々の学びのなかでも考え続けていきたいと思います。 準備や当日のご案内など、多くのご配慮をいただき、ありがとうございました。参加させていただけたことに心より感謝申し上げます。
広島市の生協連合会や平和首長会議ユースの方とのやり取りやご準備等、大変お世話になりました。ありがとうございました！
貴重なご機会をいただき、誠にありがとうございます。今回のツアーをきっかけに、核を取り巻く現状についてさらに勉強していきたいと思えました。